



明石のコミュニティ・スクール

未来にむけて 学びをかえる

未来を創り 社会を支える 新たな学びと育ちのシステムづくり

KomiKomiSukuSuku

明石市教育委員会事務局学校教育課 mail: gakkyo@city.akashi.lg.jp

For The Future

No. 1 4 3

2022

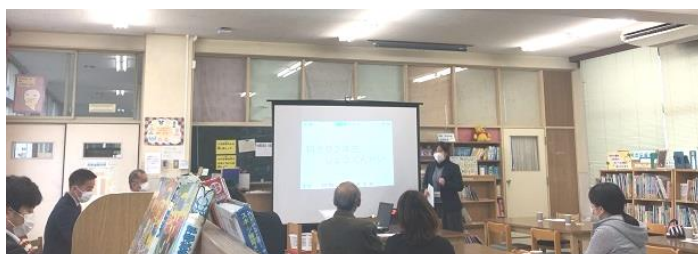
1.5

こんなスタイルの学校運営協議会も

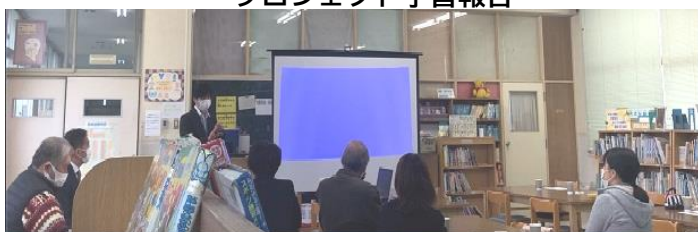
学びの見える化に挑戦
～学校運営協議会を通して～

2021年12月24日(金)の午後に朝霧小学校の学校運営協議会が開催されました。朝霧小学校の学校運営協議会にはこれまでも先生方は出席されて

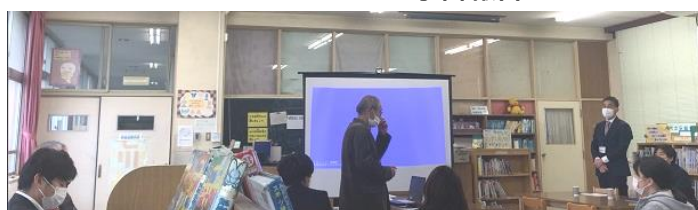
いました。その中で地域・保護者のみなさんからヒント・アイデアをもらいながら構想し取組んでこられたプロジェクト学習の中間報告があるという情報をいただいたので、ちょっと覗かせていただきました。



プロジェクト学習報告



プロジェクト学習報告



感想・意見交流

学校運営協議会として、まず校長先生から2学期の主な行事を振り返りながら子どもたちの成長の姿の報告があり、そのあと各学年から取組んできたプロジェクト学習の報告と3学期の方向性についての説明が行われました。学校運営協議会の委員のみなさんは、何らかの形でプロジェクト学習に関わられており、報告を聞くことにより、朝霧小学校のプロジェクト学習の全体像をとらえていただけたのではと思います。対話とまではいきませんでした。教職員の感覚だけでなく、保護者・地域住民の感覚でとらえた感想や意見を交えながら交流できたのは価値があったのではと思います。プロジェクトの立ち上げからプロジェクトの過程まで地域・保護者のみ

なさんに参画していただくことが“学びの様子見える化”につながり、未来を生きる子どもたちに必要な資質・能力を身に付けていく「社会に開かれた教育課程」が創られていくんだろうなと感じました。

1年生から6年生までの報告を聞きながら“地域”がベースにあり、“人”・“物”・“環境”・“生活”等を扱いながら、“人”・“物”・“環境”・“生活”等がスパイラル的に1年生から6年生までつながっていくような感じがしました。また、どの学年も教師の設定するゴール・範囲の中での活動ではなく、子どもたちを“信じて、任せて、待って、支える”といった意識をベースに、“自分たちが”といった当事者意識が育つ環境を創ろうとされているように感じました。ある学年の先生の子どもたちの成長の姿として、進行中のプロジェクトで

家に帰ってからも子どもたちが連絡を取り合って、ポスターやチラシをつくり始めるといった「先生の指示からではなく、先生の知らないところで活動が始まっている」という言葉が印象的でした。こういった進行中のプロジェクトに必要なことを考えながら、継続していく子どもたちの姿は“これから求められる学びの姿”ではと考えます。そうした“これから求められる学びの姿”のイメージを学校・家庭・地域で共有することが、今、朝霧小学校が取組んでいるプロジェクト学習を持続可能なものにするのではと感じました。そのためには今回の学校運営協議会での報告・交流だけでなく、保護者・地域の皆さんとの対話をもっと必要なんだろうと感じています。そこで現時点でできることとして、朝霧小学校では、ロイロノートを活用して“子どもたちの学び”に対しての保護者の理解を深め、子どもたちの学びへの関心を向けてもらおうと、自分たちの活動の様子やプレゼン等を家庭でも見てもらうといった取組へのチャレンジも始まっているようです。こうした背景には朝霧小の教職員のクリエイティブを楽しむ遊び心があるのではと感じました。

“まんがで知る デジタルの学び ～ICT教育のベースにあるもの～”

今あらためて問われる 教師のあり方
 情報端末一人一台時代だからこそ、必要な前提がある。
 つながりの中で起こる意見の衝突、さまざまな困難を乗り越えた先に
 見えてくるものを目指し、成長を続ける子どもたちと教師の物語。



年末に熊本大学准教授の前田康裕先生の「まんがで知る デジタルの学び」（さくら書房）が出版されました。

ベテラン教師の舎貝常道先生が退職を控えた1年を1人1台端末時代の授業・学級経営のあり方を考える姿を通して、先生たちの意識が変わっていく姿が描かれています。子どもたちに必要な資質・能力を育むためにデジタルを活用するにあたっての本質を考える上で参考になるのではと考えています。今年度を振り返り、来年度の研究の方向性

等を考える上でそうした本質をとらえていくことは必要だと考えています。

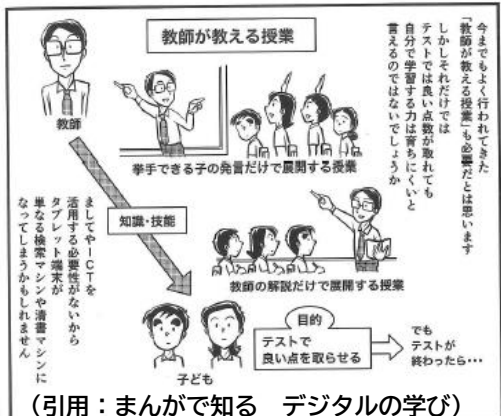
校内で読んでみるだけでなく、引用もできるので保護者・地域の皆さんへの説明にも使っていけるのではと考えています。学校に一冊いかがですか。

(文責：北本)



批判的思考
 Critical Thinking

児童・生徒に課題や学級での活動にICTを活用させる	明らかに解決法が存在しない課題を提示する	批判的に考えも必要がある課題を与える	批判的に考える必要が与えられ、ある課題を与えたりするということ項目が低いんです※	日本の教師はICTを活用できたり批判的に考える必要がある課題を与えたりするということ項目が低いんです※	OECDの2018年の調査によると
日本	17.9%	16.1%	12.6%		
中学校	51.3%	37.5%	61.0%		
小学校	24.4%	15.2%	11.6%		



(引用：まんがで知る デジタルの学び)